

- 生徒の主体性を育てたい!
- 集団づくりがうまくなりしたい!
- 特別活動の授業のアイデアを広げたい!

そんな先生方に、秀学社の特別活動通信シリーズをお届けします。



練馬区立大泉学園中学校

副校長 藤本 謙一郎

コロナ禍だからこそ特別活動を充実させ、
生徒の創造力を高め、困難な時代を生き抜く力を
育てていきましょう!

<意義について>

1

特別活動で何を行うのか?

二年間にも及ぶコロナ禍のため、短縮授業や分散登校等の影響で教科の授業の確保が最優先となり、学校行事はもちろん、学級活動の時間ですら実施が危ぶまれています。果たして学校の役割とは「教科の授業」を行うことだけなのでしょうか。教育基本法第一条に、教育の目的は「教育は、人格の完成をめざし、(以下略)」とあります。そして学問に関することは第二条に書かれています。つまり、まずは「人に関わることを追求すること」が求められていて、その上で学問の知識を身に付けていくことが求められているのです。では、人に関わることを追求することとは学校教育のどこで行うのでしょうか。最もそのことに密接しているのが、「特別活動」なのです。

平成二十九年告示の学習指導要領では、特別活動の目標に、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して」三つの資質・能力を育成することを目指す、とあります。

つまり、学級や学年、委員会、部活動といった「生徒が自分自身の所属する集団」を、生徒自身の力でよりよいものにしていくように取り組ませ、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を育てていくのです。学校生活をまさに生徒の生活時間としてとらえ、授業のこと、休み時間のことといったクラスのことはもちろん、生徒会活動への取組や学校行事への取組、学年や学校全体への帰属意識などを課題として話し合い、改善策を設け、自ら実践していくことが「特別活動」で行うことなのです。



▲最高の卒業に向けた取組を話し合っている様子

2

特別活動でどんな変化が起きるのか？

まず、生徒が主体的に判断し、自発的に行動するようになります。なぜなら、彼らに決定権を委ね、活動させるからです。もちろん、学校教育のカリキュラムに関わることやその他生徒に委ねることが出来ないことはありません。しかし、最大限生徒の裁量に委ね、信じて活動させ、失敗をした時でも次に活かすことを期待して再び任せることで生徒は大きく成長します。私たち大人も人から任せられると成長します。それと同じで、生徒を一人の人間として尊重し、任せて物事に取り組ませることで、人として大きく成長します。特に、若い発想力は既存の形態に固執することなく新しいアイデアを練り出します。学級活動の(1)と呼ばれる部分は「合意形成」を学ぶ内容で、話し合うメンバーの意見を多数決ではなく少数の意見も大切にして、皆が納得するようにまとめていきます。このような経験は、「これまで」のことが通用しないコロナ禍において、重要な能力開発に繋がると信じています。

次に、所属する集団の一人一人を大事にしていきます。なぜならば、個性を尊重しつつ、皆で取り組むことを目標として活動するからです。十年後、二十年後も繋がる人間関係を義務教育中に育んでおくことはとても重要なことです。リモートで学習した

り仕事をしたりするこれからの時代において、地域の仲間は一生涯支え合う大事な存在になると考えています。義務教育段階で地域の仲間と人間関係を創っておくことはその生徒の人生を左右することに繋がると言っても過言でないと思います。

3

特別活動で何をどうしたらよい？

特別なことをしなくても、通常の学校教育において特別活動はきちんと実施されています。例えば当番活動や係活動、清掃活動などは、社会参画意識の醸成として学級活動(3)イで触れられています。しかし、それらをより「生徒主体」へと発想を変えていくことが大切なのです。例えば、生徒総会に向けた学級協議が活発にならないと感じている先生方は、話し合う班を生活班から「話し合いたい委員会」ごとの班に再編制して話し合わせてみてください。驚くほど活発に意見交換をします。生徒の興味関心がある委員会ごとに班のメンバーを編制し直すことでより「生徒主体」の取組となり、教師が生徒に「しっかり話し合いなさい」と強く指導しなくても活発に話し合ってくれます。このような工夫と視点を次回お伝えさせていただきます。

最後に

私が自分の教育理念に「特別活動」を据えるようになったのは、平成25年度東京都教育研究員(特別活動)がきっかけです。1年間特別活動について仲間と共に学び、担当指導主事の下で研鑽に励みました。学級活動では、生徒はいつも生き生きとした表情で話し合い、「またこの授業をやりたいです!」と感想を書く生徒が少なからずいました。そういう生徒の姿から、生徒の自発性・主体性というのはこうして育むことができるのだと実感しました(この視点はその後、教科の授業にも繋がりました)。本紙を通して私が特別活動で感動した経験を少しでもお伝えできれば幸いです。

